

地震一口メモ No. 143

大阪府内で震度を観測した回数—市区町村別

2017年3月23日現在、気象庁が震度情報発表に用いる大阪府内の震度観測点は88箇所です。設置機関による内訳は大阪府72箇所、気象庁8箇所、防災科学技術研究所8箇所となっており、各市区町村に1から3観測点配置されています。

下表は、2011年1月から2017年3月までの約6年の間に、これら各市区町村の震度観測点のいずれかで震度1以上が観測された回数を市区町村ごとにまとめたものです。

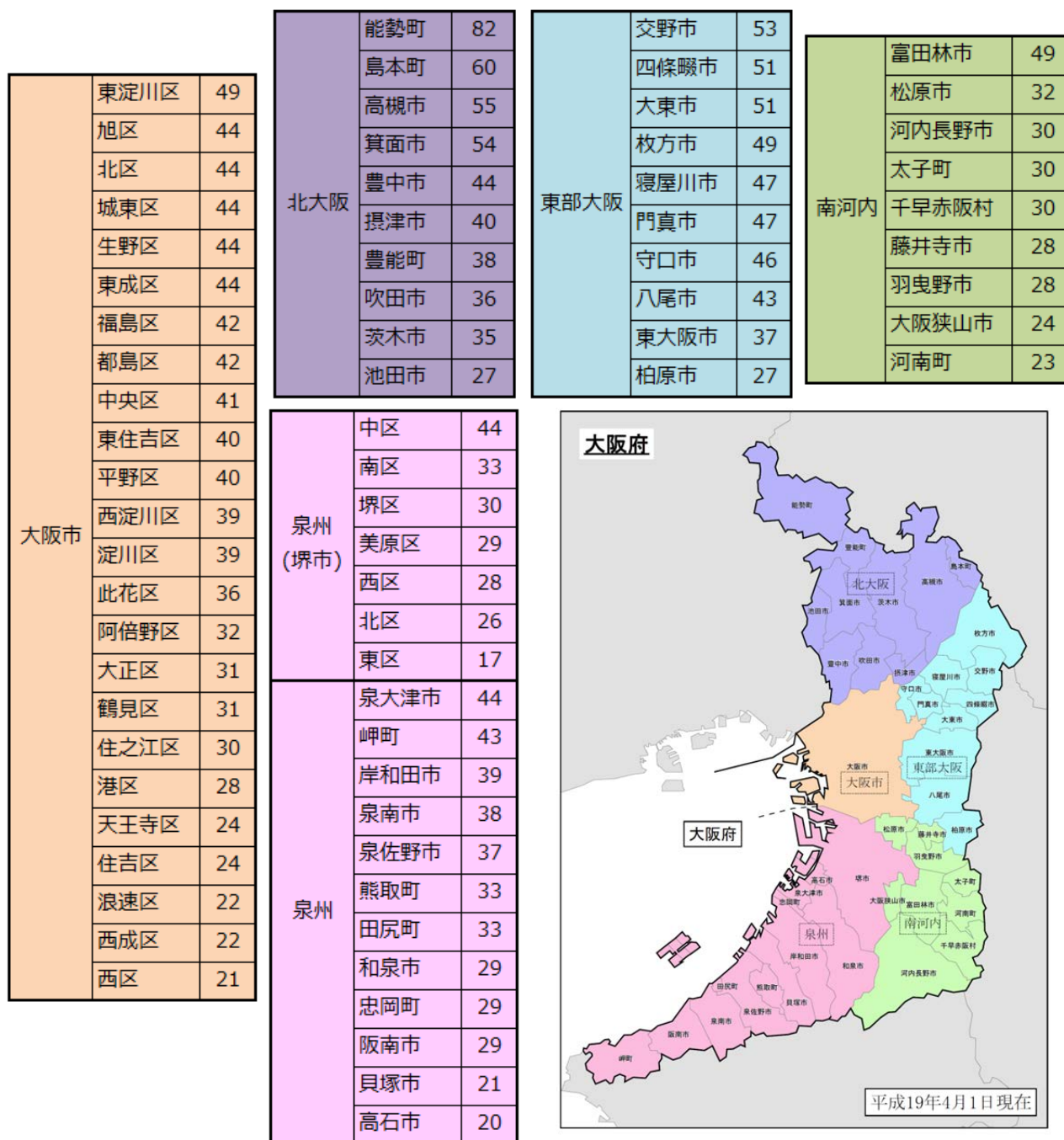


表 大阪府内の震度観測点で震度1以上を観測した回数を市区町村ごとにカウント（2011年1月～2017年3月）
 ※表は気象庁の「市町村等をまとめた地域」（右図）ごとに背景を色分けして表示しています。

市区町村のような行政的な区分けは人間が定めた境界であるため、表中の回数は地震学的には意味が無い数字と言えます。しかし、自分に身近な町でどのくらい震度を観測したのかを知ることによって防災的な関心を持つという観点からは有用なものであると考えます。

震度は地震による「ゆれ」の「ものさし」で、被害を推定する1つの指標となります。震度の大きさは、地震の規模（マグニチュード）・震源からの距離・地盤のゆれやすさに左右されます。

これまでの「大阪府の地震」の1ページ目に掲載している「近畿地方及びその周辺地域の地震活動」の「震央分布図」を見てください。北大阪では定常的な地震活動が見られることが分かります。

ゆれやすさは「表層地盤増幅率」（以下「増幅率」という。）で表されます。増幅率は、地下を伝わってくる地震波が表層地盤で何倍に拡大するかを示した数値です。増幅率の数値が高いほど、ゆれやすい軟弱な地盤といえます。下図は、防災科学技術研究所が「地震ハザードステーション（<http://www.j-shis.bosai.go.jp/>）」（以下「J-SHIS」という。）で公開しているJ-SHIS Mapの中の全国の増幅率を示した地図で、一般的に増幅率が1.6以上で地盤が弱いとされます。

J-SHISは日本全国の「地震ハザードの共通情報基盤」として活用されることを目指して作られたサービスです。その中のJ-SHIS Mapでは増幅率のほか、「今後30年震度6弱以上のゆれに見舞われる確率」の分布図などを見ることができます。

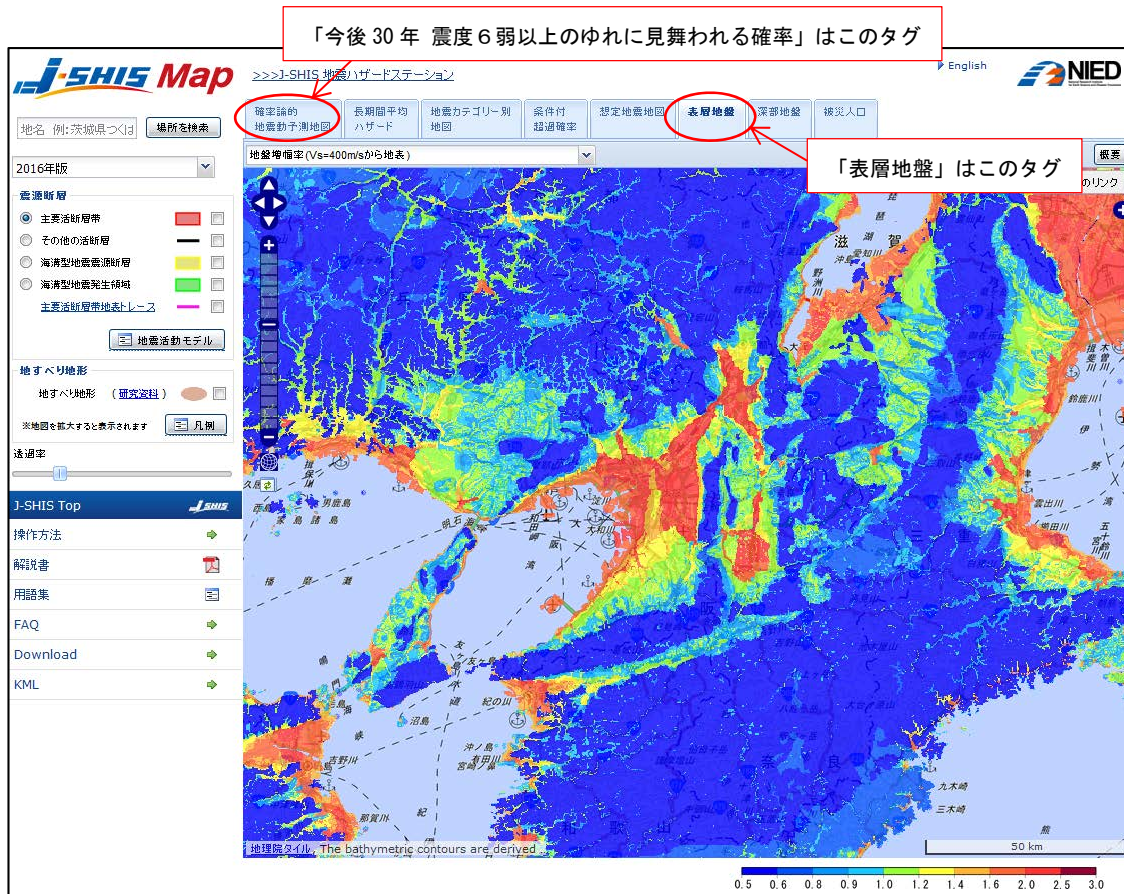


図 表層地盤増幅率の分布図

※J-SHIS Map(<http://www.j-shis.bosai.go.jp/map/>)の増幅率の分布図から大阪府周辺を引用して掲載

自分の住んでいる場所や、生活に関係している場所にはどのような地震災害のリスクがあるのかということを知り、適切な備えを行いましょう。